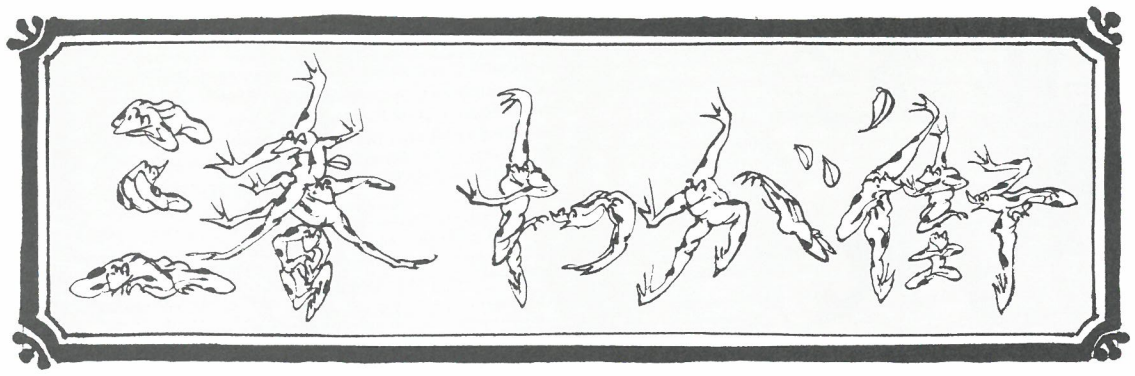


■コミュニティだより　VOL.15

特集『町民センター』

■発行　三春まちづくり協会
■編集　三春まちづくり協会広報委員会

顔

自らの作品に手料理を盛って

渡辺　民次　さん



▲　窯の前で会のみんなと。福島、郡山、船引など町外からの会員も多く、チームワークは抜群。

趣味をたくさんもつ人は、それだけ人生を楽しむことができる。渡辺さんが、これだけ多趣味の人とは知らず、ただ陶芸のことだけを伺うつもりで新町の自宅を訪ねた。

はじめ、もっぱら国鉄時代の仕事のことから「うどん・そば」の方に話題が移ってしまった。「うどん・そば打ち」は中途半端なものではなく、もはや趣味の領域を越えてしまったようだ。役場農林課主催の「うどん打ち教室」の講師をつとめたこともあるし、郡山の食通人の集まりに招かれて腕を披露したこともある。今年は七月と九月に公民館と商工会主催による「教室」が開かれるから、手作りの味に興味のある人はぜひ参加してみるといい。

細くて長いものに縁があるのは機関士としてレールの上を十万キロメートルも運転していたことによるものか。D51のSL時代から、電化されての特急電車まで、四十年間国鉄マンとして活躍した。

職場では「民芸愛好会」を主催して「しめ縄」、「張子面」づくり、「指圧教室」「うどん・そば打ち」そして「陶芸」まで、何でも試みた。

今いちばん燃えているのは、いうまでもなく陶芸だ。六二年、公民館主催による「陶芸教室」で日下部正和先生(安積高校教諭)を迎えてからは、心技ともに向上。三春陶芸クラブ会長のかたわら自らの作品づくりに励んでいる。とくに「薪くべ」は、渡辺さんにとって本領発揮の瞬間だ。昔、蒸気機関車で「石炭くべ」をしてきた経験は、シッカリと生かされている。だから釜の中の温度は目でピタリ当てることができる。

最近の作品では「花器」を作ることが多いが、難しいとされる「皿」も好んで作る。

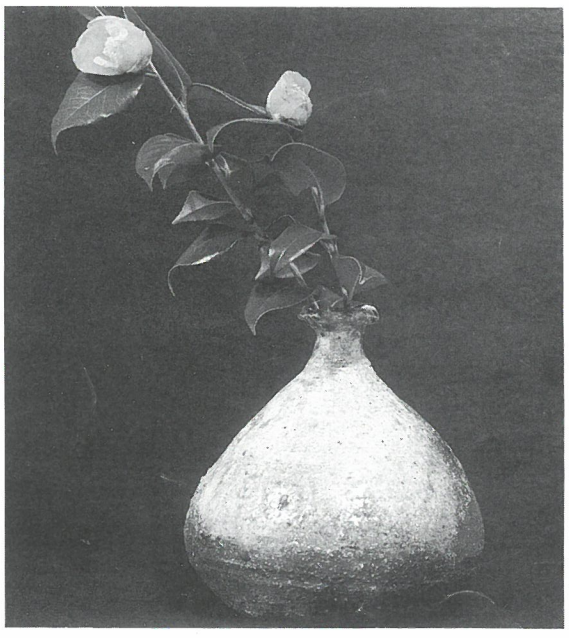
自作の皿に、自らの手打ちそばや山で採ってきた山菜などを盛って、気の合う仲間と酒を交わすというから羨ましい話だ。

三春陶芸クラブは、毎月課題をもっての作品づくりから、親睦をかねた研修旅行、秋の町文化祭への作品づくりと積極的にとりくんでいる。

今後の夢としては、三春町民みんなが自分の茶碗を作れるように「町民の窯」の設置を町に要請しているという。

新入会員の募集は、いつでも、だれでも大いに歓迎しますということだから、気軽にどうですか。

（三春陶芸クラブ会長）



▲　近作の花器。気にいった作品に、身近かにある花などをさして……。

▼　魯山人に一歩でも近づこうと無心でロクロに向かう渡辺さん「だけど、この道は果てしなく遠いネ……」



ンター座談会 聞いた 三春っ子の声

いま、町民センター建設に向け、三春町でも基本計画を出そうとしています。そこで、私たち広報委員会は町民センター建設に対する多くの皆さんの生の声をと考え、数十名の方（いろいろな年代層の方、サラリーマン、商店の方、主婦、学校の先生、お坊さん、公民館をよく利用している方等々）から聞き取りアンケート調査を実施しました。

その内容をできるだけ生のまま皆さんに伝えるため、取材にあたった広報委員全員により座談会を行いました。

現在の公民館についてどう思いますか。

C　満足していないという声がほとんどだね。原因は古くなったことが一番かな。「文化センター」とは違うのだから、演奏会に向かないという不満が多いのはあたりまえ。それと、やはり駐車場は根本的な問題だ。

D　駐車場に関する不満と、老人・障害者の利用に関するものが目立ちました。大部分は使いにくいという意見だったね。

G　現在は、「公民館」と「ホール」という二つの機能を兼ねているので、どうしても大林ホールへの不満が多いんでしょうかね。

F　公民館に満足している人は少ないってことだね。

私は毎年、田村郡全部から七〇〇人位の人が集まる催しの世話をしてるけれど、まず椅子が不足している。ホールには二〇〇位しかないからね。そのたびに体育館や小学校から借りるしかなく、いろいろと大変です。



築後約20年。老朽化が目立つ三春町中央公民館。

小野、常葉、そして船引にも立派なセンターや体育館があるし、この種の集まりを他所の町へ持っていかれないように早く三春にも立派なセンターが欲しいものだと思う。町外からのお客さんは町にお金も落としてくれるわけだし、商店街の活性化のためにも大切にしていきたいもんだね。

A　立派なホールが人を呼び、街もうるおうということですね。

B　痛切な問題は駐車場ですね。あと、目に付いたものでは、設備の充実や音響設備を考慮した建物を望む意見がありました。今のように隣や上の部屋の音楽がガンガン聞こえる部屋で会議はできませんよ。田高のブラスバンドが船引で定期演奏会を開いたというのも考えさせられましたね。

D　夜間の時間を三〇分延ばしてもらいたいという意見があったが、もっともだと思いますよ。

E　不満の理由は、ホールの問題が主です。音響効果を考えれば、今の大林ホールではとても音楽発表会やゲストを招いてのコンサートなどできる状態ではありませんからね。あと冷房関係の要望もありました。今どき扇風機ではねぇ。

I　身障者等の使いやすいようにとの意見がかなり目につきました。

A　数は少ないですが、よく利用されているとか、便利な場所にあるとか、肯定的な意見もあったことを付け加えておきましょう。

船引の文化センターについて

C　行ってみないからわからないって人が何人かいました。

E　行った人は、だいたい素晴らしいという意見のようですよ。

A　二一〇台分もの駐車場があるそうですよ。大きなイベントの時には小学校の校庭も使うそうですから、もっと駐車できますしね。

I　それは凄いですね。

B　維持費の心配をしている人もおりますが、このへんのところは三春ではどうも採算がとれないでしょうねぇ。

A　昔から三春は文化、船引は商業という考えがありましたが、文化センターができたことにより船引が田村の中心ということになるんでしょうか。

C　田村郡内関係の会合は、今は船引で行っているものが増えているようです。交通期間など田村郡の地理を考えると、船引で集まるのが便利で経済的なんですね。

D　船引にできたことで三春でも刺激にはなっていると思います。「うらやましい」という意見も含めて、いろいろな条件付きながら三春にもぜひ町民センターが「欲しい」という声は強いようです。

町民センターの建築計画を知っていますか

C　福祉センターと混同しているのがある。

D　知らないという人が半分以上ですね。

E　「知っている」という答えについてもどこまで知っているのかがよく分からない。

A　こうしてみると知らない人が多いんですね。町民へのPRを充分に行っていただきたいものです。

建築計画についてどう思いますか

D　「三春にふさわしい内容のセンターを」という意見がありますね。

C　三春にふさわしいって**D**　文化の町ということかな。

B　お金をかけて建物を建てればいいというものではないと言っている人もいます。

G　お金のことを心配している人も多いけれど、子供からお年寄りまで皆が利用できるのであれば、採算は考えなくてもいいんじゃないかな。

あるくみるきく

蔵を大切に

蔵は三春の景色とよく似合う。とくに人形館付近や桜川沿いにはたくさんの蔵が集まっている。

その内のひとつに、落書きを見つけた。カラースプレーで吹き付けたものだろうが悪質なイタズラだ。ゆるせない！

蔵は三春の財産でもあり、保存の動きがあるというのに、一方でみにくい落書きがあったのでは残念でたまらない。蔵に限らず、神社仏閣など歴



たぬきのたーちゃん

走ってきて、鍵もかけずに置いていく人もかなりいて、本田さんも「物の価値観が変ってきたのかなぁ」とおっしゃっていました。

取材中、駅裏の川に三台の自転車が捨ててあるのを目撃しました。もっと、もっと物を大切にしていきたいものですね。

お宅の自転車はだいじょうぶ？

特集　町民セ

わたしたちが



大林ホールでの「民謡まつり」。立ち見も出るほどの人気だが、空調や椅子を整備しないと、長時間の利用はつらい？

センターができるとして何を期待しますか

E　公民館とホールを別にするのかという問題がありますね。

D　ホール＋公民館ということで考えていると思いますが、ホールは別とすれば、場所を別にするのが本当でしょうね。

A　「町民の声が反映されるように」という意見を大切にしたいですね。

D　「建物の前に、文化とは何かという基本理念がなければならない」という厳しい意見もありました。

A　「具体的に知りたい」という意見があるというのは情報が不足しているということでしょうね。

F　利用者のマナーにふれたものもありました。良い建物は良いマナーを育てるという面もあると思います。

G　ちょっと話は違いますが、最近、公民館に子供がこないように思いますがどうでしょう。

D　図書館が別になったからでしょう。子供達が直接公民館に用事があるということはあまりないですし。

E　昔はフィルムの上映会などが企画されていたようですが、今はどうなんでしょうかね。

B　小学校のＰＴＡでは夏休みに借りて上映したりしてますね。

D　もっとも、今はビデオが普及していますし、子供達は公民館から図書館に移っていったということでしょうか。

A　「プラネタリウムのような夢のある施設があれば」という意見がありましたね。

G　「障害者、老人、子供すべての人が楽しく利用できる場所を…」という意見で集約されると思います。

さきほどから何度もでている駐車場の問題ですが…

B　ますます駐車場が重要な要素になってきてます。もう建物だけ作ってもダメだということですね。

A　三春の町の良さを見てもらうには歩いた方が良いという意見もありますが、それにしても一旦どこかに車を置いてから歩かないことにはしょうがないですからね。

H　資料館の駐車場にしても、一年中自分の車庫代りに置いている人さえいますから。

F　郡山文化センターも駐車場がないから利用しにくいですよね。

G　とにかく今は、充分な駐車場がなければ人は集まりませんよ。地下とか屋上とか、いくらでも方法は考えられるはずです。

C　建物の設計も大切ですが、それ以上に多くの人が気軽に集まれることを考えて駐車場を整備しないと、せっかくの建物が生きてこないかもしれませんね。



評判も上々の船引町文化センター。210台分の駐車場は大きな魅力。

最後にこの取材全体を通して感じたことは？

B　行政だけでなく、利用者の声をどんどん取入れていって欲しいものです。

C　作った人の自己満足やてもいいわけだね。

D　町では建物を作る側としてのＰＲや、町民の声をすいあげる努力が足りないと思います。どんな利用になるにしても、町民の意見を取り入れてもらいたいですね。船引では、センターを作る際に学校や利用者へ情報の提供もあったし、音楽関係者の意見などもかなり取入れたと聞いています。

センターができるとして、その使われ方は？

A　一般には多目的という言葉で代表されているようです。

E　音響設備が整っていれば、田村高校がわざわざ船引で定期演奏会をやらなくてもいいわけだね。

D　町では建物を作る側としてのＰＲや、町民の声をすいあげる努力が足りないと思います。どんな利用になるにしても、町民の意見を取り入れてもらいたいですね。船引では、センターを作る際に学校や利用者へ情報の提供もあったし、音楽関係者の意見などもかなり取入れたと聞いています。

誇りといったものでなく、町民が俺の意見も入ったんだなと思えるような建物をぜひ作ってほしい。

F　そもそもこの話は一昨年ごろある会合で聞いたのが最初だが、未だに煮詰まっていないんじゃないかと思うね。作るからには各種団体の意見などを良く聞いて、知らないうちにできちゃったということのないようにしてほしい。

E　半数以上のひとが「知らない」と言ってるのだから、町民に知らせるのが、まず町がやるべきことじゃないかな。あと、駐車場に関しては特に強い要望がでているのだから充分に考慮していただきたいと思います。

A　大熊町のホールや、矢吹町文化センター、喜多方プラザなど県内外の他の施設も充分に参考にしながら、町民の総意のもとに悔いのないホールを作ってほしいものです。

それじゃ皆さん、本日はお忙しいところお集まりくださいましてありがとうございました。今回町民の皆さんからお聞きした意見なども充分取り入れてもらって、素晴らしい町民センターができることを祈りながら、座談会を終わりたいと思います。

捨てないで！



駅前広場の放置自転車がちょっとした問題になっているというので取材に行ってみると、確かにあるわあるわ…。屑鉄同然のものから、ちょっと手を加えればまだまだ乗れるものまで放置されていました。

青少年補導協力員の本田政吉さんにお話を聞いたところ、問題なのは自転車を買ったときに防犯登録をしない人が多いこと、そして盗まれても盗難届けを出さない人がかなりいることだというのです。防犯登録や盗難届けを出しておけば見つかる例も多いそうです。

朝、駅で見ていると通学、通勤時間ぎりぎりに最近、たぬきを連れての散歩で話題になっているのが、雁木田の氏家利男さん。

氏家さんがたぬきの飼育を始めたのは三年前の五月。おそらくダム工事の関係で町へ出てきたのでしょう。

当時、まだ生れてまもないたぬきに奥さんとふたりでミルクや砂糖を与えて育ててきました。



このタヌキくん、名前は「たーちゃん」。今ではすっかり氏家さんになついていますが、最初の一年半くらいは噛みつかれて大変だったそうです。

好物はミルクと砂糖の他に刺身、生いか…と、なかなかのグルメ。散歩中に会ったらぜひ声をかけてみてくださいね。

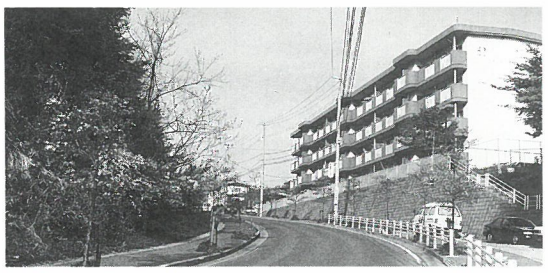
声

照沼　奈穂美

私が学校からの帰り道に、いつも思うことがあります。

それは、駅南部団地前の上り坂の所（駅南部一号線）の街路灯が片側にしかないため、街路灯のない方の道路がとても暗いことです。

「暗くなってからも安心して下校できるように、ぜひ、街路灯をつけてほしいと思います。」



駅南部団地前・昼の様子

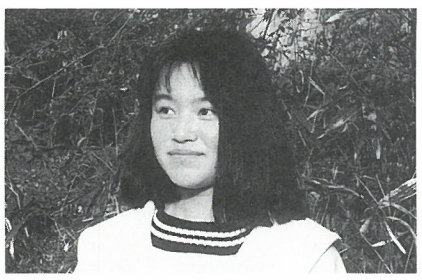
また、最近家が増えたせいか、いつも同じところに路上駐車している車が目立ちます。

家が少なかった時とちがい、車の交通量も増え、小さな子供達も多く、「通行のさまたげになるような路上駐車は、やめてもらいたいなと思います。」

それから、お年寄りが買物袋をさげて、坂道の途中で休みながら、歩いている姿もよく見かけます。

「食料品や衣料品等の店が近くにあれば良いと思います。」

（三春中三年）



照沼奈穂美さん



〝蛙文字〟と私

渡辺　弥七

二十数年前、としか今は思い出せない。急な病で実家の母が入院したことがあった。命に別状はないとのことであったが、鼻から管を差し込まれ、不自由に横たわる母の姿は、いかにも痛々しく、何とか、その心を慰めたいという思いにあわせて、早く良くなって、自宅に帰る（蛙）ことができますようにとの祈りを駄ジャレに込めて、〝蛙文字〟は突如生まれた。

母をいかにして楽しませ、また、退屈をまぎらわせようかと、蛙の目線、表情、手足の動きなどに、それはそれは念を入れて「おばあちゃん、はやくよくなってください」と書いたものだった。

実家には、書家として全国的にも高いレベルにある敬ってやまない長兄がおり、その彼が私の蛙文字の手紙を評価してくれ、社中展に客分として展示してくれたことで、蛙文字は初めて世に出、その好評から私は、大きく自信を得ることとなった。

なまじ書に打ち込んだ時期もある因果で、母へ便りするにも、それが当然、兄の眼にも触れることを思うと、つい、内容より字の出来にこだわるというつまらない神経を使い、何枚も書きしくじっては、結局出さずじまいとなることが多かったが、他に書き手のない蛙文字は、私にとり、かけがえのない通信手段となり、やがて、母への日毎のハガキ定期便となった。

定期便は、十五年前の八月二十日、母が突如満八十歳の生を閉じるまで続いた。その日、倒れる直前まで、「ハガキはまだか」と心待ちにしていたと義姉から聞かされたが、思い出すたび、今も胸があつくなる。

若くして夫を亡くし、苦労だらけの母の人生の、たとえ晩年の一時期にせよ、いくらなりと御心を慰め得たとすれば、それはまぎれもなく蛙文字のおかげであった。

今や蛙文字は、私の人生の一部であり、一種、写経のようなものとなった。

蛙文字を書くことで、初心に帰る（蛙）ことの大切さを思い知らされ、ひたむきか、感謝し、感動する心を失くしていないか、自己点検に入ることになる。

まさに、私は蛙文字を通して人生を観、ものを考えているようだ。

蛙文字は、私の創意で生まれたものと思っていたが蛙文字こそは、貧しかった母が、財産の代わりに私に残してくれた何物にも替え難い素晴らしい形見だったと気づいた今は、蛙文字を描くたびに、大いなる母の愛を感じるのである。



渡辺弥七さんがお母さんに送った手紙

〝美しいまち〟づくりに　願いをこめて！

「美しいまちづくりのために」という願いのこもった御寄付を、

◎商工会婦人部より
３７、７２２円

◎ロータリークラブより
３０、０００円

それぞれ頂きました。これらの御寄付を環境部会において、ゴミ減量化のために使わせて頂きます。

具体的には、コンポスト購入助成金制度を創設し、コンポスト利用の推進を図りたいと考えております。

現在、制度の内容の検討中です。決定しだい皆様にお知らせいたします。

スタッフ求む！

当委員会では、スタッフを募集しております。我々といっしょに楽しく広報を作ってみませんか。

特に、現在男ばかりの寂しい所帯ですので、「女性スタッフが加わって頂けたら…」とスタッフ一同考えております。

街の話題　お待ちしてます！

広報委員会では、楽しい話題、取り上げてほしい特集、心なごむ話題を探しております。皆様の話題提供をお待ちしております。事務局または広報委員にご連絡ください。

わたしたちが広報委員です。

委員長　中村利孝　中町
副委員長　田村勇　師範場
委員　飛田昭司　山崎
委員　須藤吉雄　丈六
委員　佐藤和之　亀井
委員　角　悟朗　丈六
委員　永井　久　中町
委員　佐藤　弘　北町

題字（蛙文字）協力
渡辺　弥七さん
カット協力
新田由香里さん
御協力ありがとうございました

編集後記

スタッフ十名の十数回に及ぶ編集会議の末、やっと「三春わが街」十五号ができあがりました。

標題の蛙文字のせいか？文字通り「蛙鳴蝉噪（あめいせんそう）」の会議でしたが、本音で話し合い大変勉強になりました。

「岡目八目」という言葉がありますが、町民の皆さんがどんな町民センターの実現を望んでいるのか、生の声を特集に生かすよう努力いたしました。（角）

見開き四ページの印刷物を作ることがこんなに大変だったとは…。何十ページもの新聞を毎日発行している新聞社の凄さを改めて感じました。

「町民センター特集」いかがでしたか。駐車場完備で町民みんなが使いやすいセンターが一日も早くできるといいなと思います。

渡辺弥七さんに書いていただいた題字（三春わが街）の蛙たち一匹一匹の表情やしぐさ、とても楽しくて、みとれてしまいました。

取材にご協力くださった方々、本当にありがとうございました。（永井）

コミュニティだより
「三春わが街」第十五号
発行日　平成五年七月一日
発　行　三春まちづくり協会
編　集　三春まちづくり協会
広報委員会